（様式１）　実践事例

学校名	伊達市立松陽中学校		校長名	大木　修		
住　所	福島県伊達市保原町大柳字向山１		児童生徒数	２０４	学級数	１０
ＴＥＬ	024-575-3204	ホームページアドレス	http://www.school@shoyo-j.fks.ed.jp			

確かな学力を高める授業作り
～協調的な学習方法の効果的な導入～

１　少人数教育の計画

（１）少人数学級のよさを生かした指導方法の工夫
　①　個に応じた多様な学習の場の設定
　②　学び合う（認め合う）学習の場の設定
　③　生徒の実態と学習内容に応じた効果的な学習形態の工夫
　④　個に応じた指導・支援による指導方法の工夫

２　実践の概要

（１）指導方法の工夫（数学科における取組）
　全学年において，年間を通じてＴＴの授業を設定し，特に２学年については，習熟度別授業を，週１時間程度３人体制で実施した。机間指導の際にＴ１・Ｔ２が協力して行い，特に基礎的な既習事項が身に付いていない生徒については，Ｔ３が計画に従って個別に指導した。

（２）朝の時間における取組
　第２学年では，朝の学習の時間に国語・数学・英語の学力向上対策を実施した。教科担任と学級担任とでＴＴによる指導を実施した。

（３）３学年の学力補充
　３学年については，昼休み・放課後に学習会を実施した。学習会では，３学年教師でチームを組み，ＴＴによる指導を行い，問題練習を通して不得意教科の克服を目指している。

（４）協調的な学習方法の導入
　各教科においては，教材研究を進め協調的な学習方法を取り入れた授業を展開しＴＴによる指導を行った。

【２年生数学の授業】

【朝の学習】

３　実践の成果と課題

○　ＴＴの学習形態を取り入れることにより，つまずきのある生徒が，その時間の中で教師に質問し解決していくことができるようになった。生徒と関わる時間も増え生徒同士で教え合う姿も多く見られるようになった。

○　３学年の学力補充は数年前から実施しているため，生徒に意識化されている。それぞれが課題に取り組み，質問する姿が多く見られる。

○　協調的な学習方法を取り入れた授業を展開し，グループや学級の中で発表する機会を設けた。発表するために，他の意見を聞き，考えまとめることは理解を深めることに役立った。

●　基礎的な学習内容が身に付いていない生徒は，既習の学習内容に戻って理解できるようにしていくことが必要であるため，Ｔ３の役割が重要である。教科や授業の関係で毎時間の配当は難しいが，学力向上に向けて，できるだけ多く個別指導に入れるような体制づくりを進めていきたいと考える。